

日本精線 タイ精線 設立30周年 タイ製造拠点の展望

ステンレス鋼線最大手の日本精線のタイ製造拠点、タイ精線(サムットプラカーン州バンブー工業団地、山本雅夫社長)が本年設立30周年を迎え、きょう16日現地で記念式典が開催される。アジアの拡大する需要をいかに取り込むか。日本の鉄鋼関連企業に課せられた命題だが、日本精線はすでに30年もの歳月をかけて基盤をタイで築いてきた。その基盤をさらに強固にし、グループ成長戦略の道筋を確かにしていく。新貝元・日本精線社長に現状と今後の展望を聞いた。

タイ精線のこれま
の歩みから。

工場(東大阪市)と並ぶ、
高機能独自製品の供給拠

点へと成長を遂げてい
る。

「30年を迎えた思い
は。」

「将来的には月間10
00トの生産規模を目指

しているが、まずは品質
面での作り込み体制をし

っかりと確立した上で、
量を追っていきたい」

「タイ精
線の将来像

日本市場の将来的な伸長
が見込めない環境下で、
海外需要を捕捉するため
に、ステンレス鋼線の一
般軟質線の供給拠点とし
て1988年にタイ精線
を開設した。その後現地
需要の動向に沿った形で
製造品目の拡充を進め、
2008年には家電向け
のばね用線、11年には
線径24号の極細線を、12
年には自動車向けばね用
線を、15年には太径クロ
ム系ステンレス鋼線の生
産を開始。現在では国内
製造拠点である枚方工場
(大阪府枚方市)、東大阪



新貝元社長に聞く

「18年2月期決算は、
売上高が11億3,300万
円(前年比1.3倍)、経
常利益も9,400万円の
増収増益となった。今期
はさらに上乗せし売上高
が13億1,000万円、経
常利益が1億1,000万
円を計画している」

「課題と今後の設備
投資計画は。」

海外攻め込む一大供給基地

さらなる成長へ生産能力増強

「15年にタイ初の本格的な硫酸被膜設備を導入。線径24号から20号までそろえる東南アジア唯一のステンレス鋼線メーカー」となり、需要による多様なニーズに
「タイ精線は海外市場に攻め込む一大供給基地としての位置づけをより強固なものにして、存在感を打ち出していきたい」



タイ精線外観

「タイ精線の将来像」

※本記事は日刊産業新聞社の承諾を得て掲載しており、著作権は日刊産業新聞社に帰属します。